

報道関係各位

# 2017年も日本企業は積極的に 海外 IR を進める傾向が明らかに

## IR 実務英語セミナーのアンケート集計結果

IR 翻訳サービスの株式会社エイアンドピープル（本社：東京渋谷区、代表取締役・浅井満知子）は、2016年11月25日（金）に「IR 実務英語セミナー」を開催しました（一般社団法人日本 IR 協議会との共催）。

2015年より開始されたコーポレートガバナンス・コードの適用等により、日本企業の海外向け IR の必要性がますます高まっています。企業も IR 担当窓口に英語力のある人材を登用するなど、組織的に海外向けの英語による IR に力を入れている企業が増えています。

そうしたなか、各企業の担当者様から「理想的な英文 IR のために、表現はどのようなことに注意をすべきか」「わが社の英文 IR はブランドイメージを高めているのだろうか」というお声を、翻訳会社である当社にいただくケースが増えて参りました。

活発な意見交換が行われた質疑応答



そのようなご要望にお応えすべく当社では 2010 年より IR 英文実務セミナーを IR 協議会と共催しています。

今回は、米国証券取引委員会（SEC）が推奨する「プレイン・イングリッシュ<sup>\*1</sup>」への書き換え体験に加え、投資銀行出身のアメリカ人講師が「欧米 IR 資料のベストプラクティス」というテーマでレクチャーを行いました。

セミナー参加者へのアンケートから、約 70%の企業が 2017 年以降も海外 IR を「積極的に行う」という結果が示されました（「現状を維持する」企業は 21%、「縮小する」企業はゼロ）。これは日本の株式市場における外国人投資家比率<sup>\*2</sup> および海外事業の比重の高まり<sup>\*3</sup> の表れと読み取ることができます。エイアンドピープルでは日本企業の強みを魅力的に海外に伝えていくために今後も尽力してまいります。

<sup>\*1</sup> 1文は 15-20 ワード以内といったルールに従い、明確さと簡潔さを強調し、読者の理解を促すことを目

的としたイギリス発祥のライティング手法。アメリカでは公的文書やジャーナリズムで使用されている。

\*<sup>2</sup>外国人持株比率は主要日経 225 社のうち 35.3%と過去最高となっている（2015 年）。

\*<sup>3</sup> 製造業の海外生産比率は過去最高水準。現地法人の売上高、経常利益、当期純利益ともに増加（経済産業省「第 45 回海外事業活動基本調査概要」）。

#### 【会社概要】

会社名： 株式会社エイアンドピープル  
代表： 代表取締役 浅井満知子  
所在地： 東京都渋谷区恵比寿西 1-3-10 ファイブアネックスビル 7F  
ホームページ： <http://www.a-people.com>  
設立： 1998 年 10 月  
資本金： 3,000 万円  
従業員数： 15 名  
事業内容： 翻訳・通訳事業、英文 IR 支援事業、化粧品販売

<本件に関するお問い合わせ先>

株式会社エイアンドピープル 担当:橘川(きつかわ)

TEL:03-5428-5668 FAX:03-5428-5669 E-mail:ap\_info@a-people.com

**アンケートの集計結果**（参加企業数：92社[東証一部上場企業数 86社] 参加者：102名 有効回答：81名）

### 【IRセミナーの分析】

- 今回のIRセミナーには、参加者の大半にご満足をいただき、約78%の方に次回のIRセミナーへも参加したいという意向をいただきました。
- 現在すでに行っている海外IRとして、20%以上の企業様が取り組んでいらっしゃるの「決算短信」「決算説明会資料」「プレスリリース」「アニュアルレポート」「海外ロードショー」です。
- 一方、「今後積極的に行う予定の海外IR」について、40%以上の回答をいただいた項目は「決算短信」「決算説明会資料」「英文IRサイト」「海外ロードショー」「機関投資家との個別面談」でした。

### 【今後の課題】

- 「リライト事例がもっと多くても良い」「英作文の時間をもっと取ってほしかった」等、構成や時間配分についてのご意見をいただきましたので、今後見直しを行っていきます。

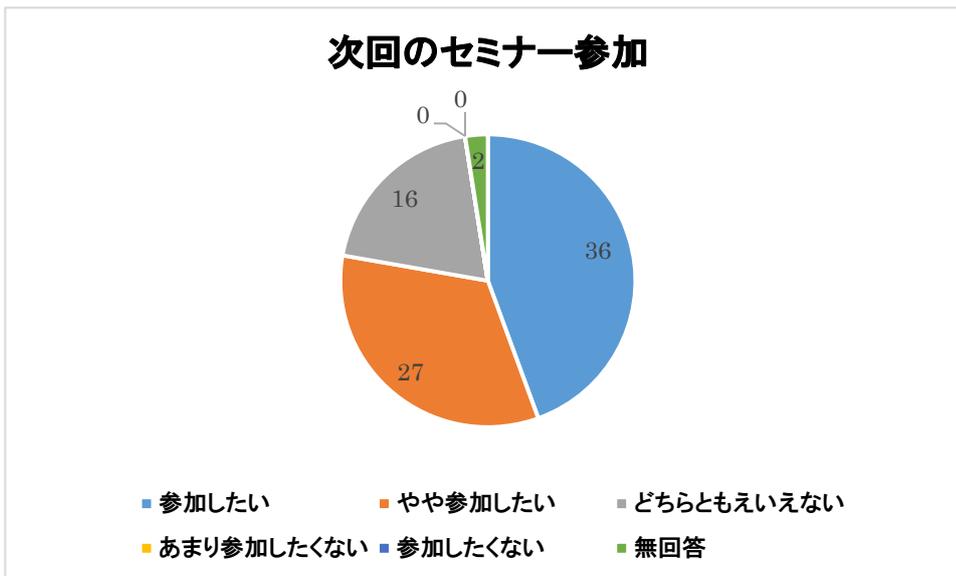
### 【アンケート設問内容と解答】

- 1) 実際に参加していかがでしたか？
  - ・ プレイン・イングリッシュを使う重要性が理解できた。
  - ・ ポイントが押さえられ、今後の対応が明確になった。
  - ・ やはりプロに頼んで翻訳してもらいたいと思った。
  - ・ 単なるリライトではなく、投資家目線でよりアピールできるようなリライト事例が多く参考になった。
  - ・ 開示資料のリライトはやはり専門家の助言が必要だと感じた。日常メール等にはすぐに活用できそう。
  - ・ ここまでシンプル化してよいのかということがわかり、非常にためになった。
  - ・ Visualの重要性の高さが意外だった。
  - ・ 後半のベストプラクティスの事例は希望していた聞きたい内容だった。
  - ・ プレゼン資料の作成ポイントなど、実務に沿った内容についてのアドバイスもあると、より良かったと思う。
- 2) 今後、続編として取り上げてほしい英文IRセミナーのテーマを教えてください。
  - ・ アニュアルレポートでの効果的な英文表記
  - ・ プレゼン資料の作成方法（決算説明会や個別面談の資料など）
  - ・ IR Meetingに役立つ内容
  - ・ 海外投資家とのやりとり
- 3) その他、感想をご記入ください。
  - ・ たくさんの海外の会社の例が紹介されていて、興味深く受講できた。

- ・ リライト事例がもっと多くても良い。日本の IR の英訳も使いながら良い例、悪い例の紹介等。
- ・ Q&A はとても面白かったので、今後もこういった相互的なものを期待している。

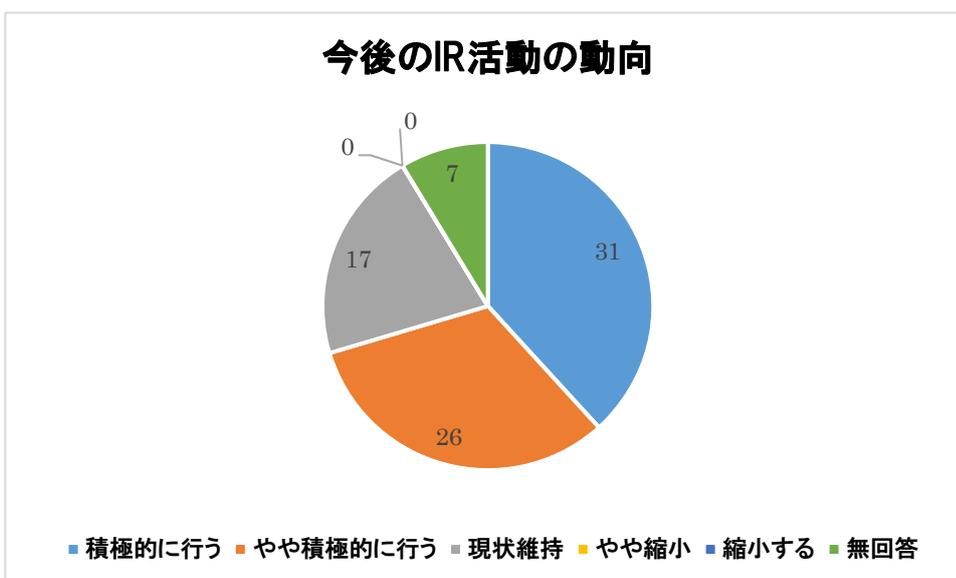
4) またセミナーに参加したいと思いますか。(グラフ内の数字は人数)

参加したい    やや参加したい    どちらともいえない    あまり参加したくない    参加したくない



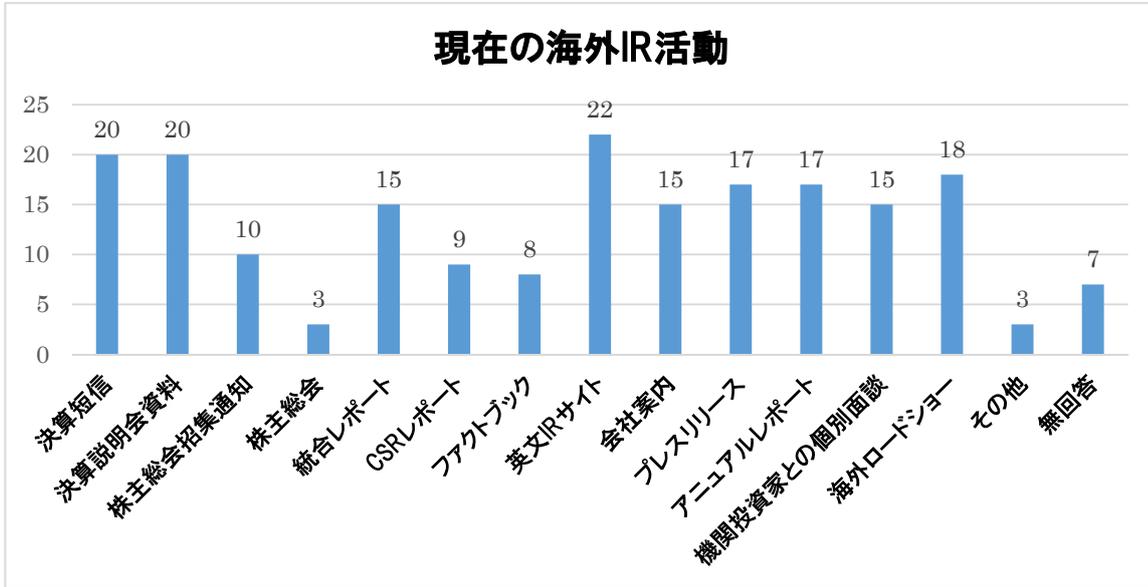
5) 2017 年に向けて貴社では海外 IR を積極的に行っていく予定ですか。(グラフ内の数字は人数)

積極的に行う    やや積極的に行う    現状維持    やや縮小する    縮小する



6) 現在すでに行っている海外 IR 活動について○を付けてください。(複数回答可)

決算短信 決算説明会資料 株主総会招集通知 株主総会 統合レポート  
 CSR レポート ファクトブック 英文 IR サイト 会社案内 プレスリリース  
 アニュアルレポート 機関投資家との個別面談 海外ロードショー その他



7) 今後積極的に行う予定の海外 IR に○を付けてください。

(5) で「積極的」と回答した企業対象・複数選択可

決算短信 決算説明会資料 株主総会招集通知 株主総会 統合レポート  
 CSR レポート ファクトブック 英文 IR サイト 会社案内 プレスリリース  
 アニュアルレポート 機関投資家との個別面談 海外ロードショー その他

